HALNOTE

図形プロセッサ

はじめに

『図形プロセッサ』は『日本語ワードプロセッサ』とともに、統合化ソフトウェア「HALNOTE BOOK」に標準装備されているソフトウェアです。『バインダ』を橋渡しとして、『日本語ワードプロセッサ』や、今後発売が予定されている『表計算』などのソフトウェアとの連携プレーをお楽しみください。

『図形プロセッサ』は『日本語ワードプロセッサ』の画像入力・編集機能とは異なり、絵というよりは図形や図面に近い、正確さと操作性を重視しました。

「図形プロセッサ」には次のような特長があります。

●正確な作図

正確な作図を可能にする格子機能。画面に方眼を表示し、長さや距離を計るほか、ポイントの位置を決めてずれを防ぎます。格子の大きさは無表示を含めて12種類が用意されています。

●操作性抜群の図形編集機能

移動、複製、拡大縮小はもちろん、一度画面上から消した図形を何度でも表示させる機能や、図形の重ね合わせの順番を指定する機能もついて、自由自在に編集できます。しかも操作性は抜群。

●線やトーンの選択、変更が可能

線の太さや、矢印、塗りつぶす面の模様（トーン）を自由に選んで、図形に変化をつけます。また、図形を描いた後でも線やトーンの変更ができますので、失敗しても大丈夫。納得がいくまでトライできます。

●豊富な文字デザイン

きちっと描いた図形の中に文字を入れる。やはり文字のデザインや大きさには凝ってみたい。標準も含めて7種類の飾り文字、10種類の大きさ、更に英数字に、11種類のデザイン文字が用意されています。
ポップやカード、ラベルなどに力を発揮します。

目次

1章　準備編

1　マニュアルの使い方 …… 2

2　マウスとキーボード …… 3

3　起動と終了 …… 4

1．起動 …… 4

2．終了 …… 5

4　画面について …… 6

2章　入門編

1　バースデーパーティーの案内状を作る …… 14

1．紙の大きさを決める …… 14

2．Ｒ型四角形を描く …… 16

3．文字を入れる …… 17

4．描いた図形を拡大・縮小する …… 20

5．格子幅を決める …… 21

6．四角形、直線を描く …… 22

7．図形を合体する …… 24

8．三角形を描く …… 26

9．円を描く …… 27

10．図形を移動する …… 28

11．前出し・後送り …… 29

12．仕上げ、矢印 …… 31

13．印刷 …… 32

14．保存・終了 …… 33

3章　機能編

1　作図 ……36

1．直線 ……37
2．四角形 ……38
3．Ｒ型四角形 ……39
4．円・楕円 ……40

2　図形セレクト ……42

1．ポイントセレクト ……42
2．ボックスセレクト ……43
3．総選択（オールセレクト） ……44
4．図形の合体・分離 ……44

3　線の太さ・矢印の種類・トーンの指定と変更 ……47

1．線の太さ ……47
2．矢印の種類 ……49
3．トーン ……51

4　文字入力 ……53

1．文字の入力 ……53
2．文字の飾り付け ……55
3．文字のサイズ ……57
4．字種 ……59
5．左寄せ、右寄せ、センタリング ……61
6．文字間 ……63
7．禁則処理 ……65
8．文字枠詰め ……66

5　編集 ……67

1．拡大・縮小 ……67
2．移動 ……68
3．複製 ……69
4．切り取り ……70
5．複写 ……71
6．貼り込み ……72

7．消去 ……73
8．復元 ……74
9．前出し・後送り ……75

6 画面操作 ……76

1．レイアウト表示 ……76
2．格子 ……77
3．表示ページ変更 ……78
4．画面スクロール ……78

7 ファイル操作 ……80

1．新規 ……80
2．保存 ……81
3．読み込み ……83
4．更新 ……84
5．追加読み込み ……85
6．登録 ……87
7．組み込み ……89
8．終了 ……91

8 印刷 ……92

1．印刷形式 ……92
2．印刷の実行 ……94

4章 付録編

グラフキー対応一覧表 ……96
索 引 ……97

…73
…74
…75
…76
…76
…77
…78
…78
…80
…80
…81
…83
…84
…85
…87
…89
…91
…92
…92
…94
…96
…97

1章　準備編

図形プロセッサ

1　マニュアルの使い方

『図形プロセッサ』のマニュアルは次のように４章構成となっています。

Ｉ章　準備編	２章　入門編
３章　機能編	４章　付録編

１章の準備編では、このマニュアルの使い方から、起動および終了の方法、『図形プロセッサ』の画面がおおまかに説明されています。
これだけは、覚えておいていただきたい基礎です。
『図形プロセッサ』を初めてお使いになる方は、簡単にでも目を通していただきたいと思います。

２章の入門編では、実際に作図しながら、『図形プロセッサ』の使い方が一通り身につくように構成されています。
『図形プロセッサ』を初めて、お使いになる方はこの入門編にそって、実際に作図してみると、最も早く操作を覚えることができます。

３章の機能編は、『図形プロセッサ』の全機能を操作の内容別に説明しています。
操作方法について、わからないことがでてきた場合に随時参照してください。
また、機能名から検索したい場合は４章の索引と併用すると便利です。
操作内容は次のような分類となっています。

1　作図
2　図形セレクト
3　線の太さ･矢印の種類･トーンの指定と変更
4　文字入力
5　編集
6　画面操作
7　ファイル操作
8　印刷

４章の付録は「索引」と「グラフキー＋文字キー」で選択できる機能の一覧,表とから構成されています。

2　マウスとキーボード

ここでは、マウスとキーボードの基本的な操作について説明します。
『図形プロセッサ』はマウスとキーボードの両方に対応していますので、マウスを使用しなくても、操作することができます。

ただ、本マニュアルはマウスを使用することを前提として、書かれていますので、マウスをご使用にならない場合は、下記を参考に操作してください。

●マウスカーソルの移動

マウスを使用する場合はマウスを動かして行います。
キーボードで行う場合は、グラフキーを押しながら、カーソルキー（↑↓←→）を押すと、カーソルキーの方向にマウスカーソルを移動することができます。また、斜めの移動は↑と←（左上）、↑と→（右上）、↓と←（左下）、↓と→（右下）をそれぞれ同時に押します。
グラフキーとカーソルキーを押し続けると、マウスカーソルを速く動かすことができます。

●決定・キャンセル

マウスを使用する場合は、左クリックで決定、右クリックでキャンセルしますが、キーボードで行うときはグラフキーを押しながらセレクトキーを押して決定、ESCキーを押してキャンセルします。
左(右)クリックとは、マウスの左(右)ボタンを1回押してすぐ放す操作を指します。

●ファンクションの選択

マウスを使用するときは、選択したいファンクションにマウスカーソルを合わせて左クリックしますが、キーボードで行うときは、セレクトキー、ストップキー、またはファンクションキーを押して選択します。各ファンクションと各キーの対応は次のとおりです。

セレクト→新規	F2→字体	F5→線種
ストップ→デスクアクセサリ	F3→字種	F6→表示
F1→編集	F4→書式	

●メニュー内の機能選択

マウスを使用する場合は、選択したい機能にマウスカーソルを合わせて左クリックしますが、キーボードで行うときは、カーソルキーを押して、選択したい機能を反転させてから、リターンキーを押します。

●メニューのキャンセル

マウスを使用するときは、右クリックしますが、キーボードを使用するときは、ESCキーを押します。

準備編

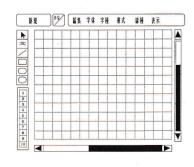
3　起動と終了

『図形プロセッサ』の開始方法（起動）と終了方法について、説明します。
起動と終了は大切な操作ですので、実際の作図に入る前にしっかり覚えておきましょう。

1．起動

①『バインダ』を起動させます。（起動方法は「HALNOTE BOOK」をご覧ください。）

②**「道具」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「製図用具」**を左クリック。

④『バインダ』の画面が消えて、『図形プロセッサ』が起動し、左図のような描画画面が表示されます。

2．終了

『図形プロセッサ』を終了し、『バインダ』に戻します。

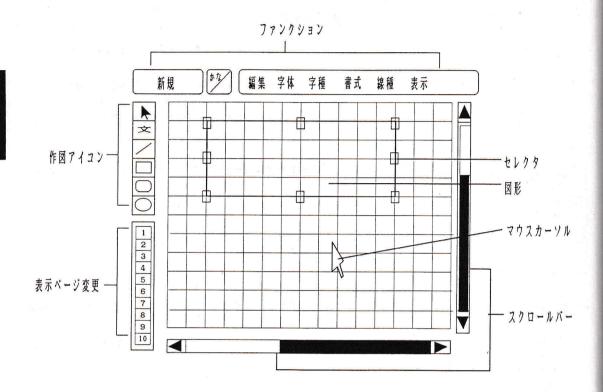
保存または更新（3章機能編　7ファイル操作　2.保存、4.更新）をせずに終了すると、描画は消えてしまいます。後でまた使用する可能性がある場合は、保存（更新）を行ってから、終了を実行します。

①**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

②保存（更新）が必要な場合は、その処理を行います。必要ない場合は次に進みます。

③**「終了」**を左クリック。「終了しますか」と表示されます。

④**「はい」**を左クリック。『図形プロセッサ』の描画画面が消え、『バインダ』の画面が現れます。
終了させずに、描画を続ける場合は**「いいえ」**を左クリック。

4　画面について

『図形プロセッサ』を起動すると、上図のような画面が現れます。これが基本の画面（描画画面といいます。）です。

ここでは、描画画面上の各部分の呼称と機能をおおまかに説明します。個々の機能については「３章　機能編」に詳しく説明されていますので、参照してください。

●ファンクション

作図、編集に必要な機能を選択します。
ファンクションには「タイトルメニュー」「デスクアクセサリ」「編集」「字体」「字種」「書式」「線種」「表示」があり、それぞれに機能を選択するメニューが用意されています。メニューを表示するには、各ファンクションにマウスカーソルを合わせて、左クリックするか、セレクトキー、ストップキー、またはキーボードのF1～F6のキーを押します。また、表示されたメニューを消すには、右クリックするか、ESCキーを押します。
各メニューの中の機能を選択するには、マウスカーソルを機能に合わせ、左クリックするか、カーソルキーで選択したい機能を反転させて、リターンキーを押します。

(1)タイトルメニュー

読み込みや保存などファイル関係の操作、および印刷、終了を行います。
また、ファイルを読み込んだり、保存したりした場合は、ここにファイルネームが表示されます。
新規文書作成中は「新規」と表示されています。

・新規
描画画面上に表示されている描画をすべて消す機能です。
描画画面をきれいにし、新しく作図を開始するときなどに行います。
今後使用する可能性のある描画については保存、または更新をしてから実行します。

・読込
データディスクに保存されているファイルを描画画面上に表示させます。
前に作成した描画を修正したり、印刷したりするときに行います。

・保存
作成した描画をデータディスクの中に保存します。
保存は新しくファイルを作成するときに行います。(すでに保存されているファイルに上書きする場合は更新を行います。)

・更新
新たに修正（作成）した描画を、すでにデータディスクに保存されているファイルに上書きします。（上書きせずに別のファイルとして保存したい場合は保存を行います。）

・登録
指定した図形をHALNOTE標準形式のファイルに保存します。登録したファイルは、組み込みを行うことにより、『図形プロセッサ』や『ワープロ』の中に表示させることができます。

・組込
登録を行って保存したファイルを描画画面上に読み込みます。

・追加読込
現在画面表示されている描画の上に別のファイル（描画）を読み込み、重ねて表示します。
２つの描画を合成させたいときに行います。

・印刷形式
印刷する紙の大きさや種類の設定を行います。

・印刷
印刷するページ、部数の設定を行い、印刷を実行します。

・終了
『図形プロセッサ』を終了します。
終了を実行する前には、保存の確認をします。（保存せずに終了すると、作成した描画は消えてしまいます。）

⑵デスクアクセサリ
文字入力に関する機能、モードの選択および、プリンタの機器設定、画面のバランス調整などを行います。
時計、カレンダー／スケジューラ、住所録／電話帳などの機能を使用します。
各機能については、「HALNOTE BOOK」を参照してください。

⑶編集
描いた図形の複写、切り取り、貼り込み、図形の合体、分離、復元などの編集作業を行います。

・復元
拡大・縮小や移動した図形を、実行前の状態に戻します。

・消去
指定した図形を消します。一度消去した図形は切取と違って再び画面に表示することはできません。

・切取
描いた図形を描画画面上から消し、コンピュータに記憶させます。
『図形プロセッサ』を終了するか、別の図形の切り取りまたは複写を行うまでは、何度でも画面上に表示（貼込）することができます。

・貼込
切り取ったり、複写した図形を再び描画画面に表示させます。

・複写
描いた図形を描画画面に残したまま、コンピュータに記憶させます。
『図形プロセッサ』を終了するか、別の図形の切り取り、複写を行うまでは、何度でも画面に表示（貼込）することができます。

・複製
指定した図形と同じ図形をもう１つ描画画面に表示します。

・前出
いくつかの重ねて描いた図形のうち、指定した図形を一番手前（上）に表示させる機能です。

・後送
いくつかの重ねて描いた図形のうち、指定した図形を一番後ろ（下）に表示させる機能です。

・合体
いくつかの図形の集まりを１つの図形として扱えるようにする機能です。

・分離
合体された図形の集まりを、個々の図形に分けます。

・文字枠詰
入力した文字の数や大きさに合わせて、文字領域を縮小、または拡大します。

・総選択

１ページ内にある図形全部を各編集・変更の対象（図形セレクト）にします。

⑷字体

飾り文字の種類、文字の大きさを選択します。

文字入力前に字体の選択をすれば選択した字体で入力され、文字入力後に選択すれば入力した文字を変更することができます。

・飾付

飾り文字の種類を選択します。

起動時には「なし」が選択されています。

・サイズ

文字の大きさを選択します。数字の単位はドットです。起動時には「12」が選択されています。

⑸字種

英数字のデザイン（11種類のフォントが用意されています。）を選択します。

英数字にデザイン文字を使用せず、標準の文字種を使用する場合には「標準字体（12）または（16）」を指定します。

⑹書式

・書式

文字の位置（左寄せ、右寄せ、センタリング）を指定します

起動時には「左寄せ」が選択されています。

・文字間

文字と文字の間の間隔を設定します。

・禁則処理

禁則処理を行うかどうかを選択します。

⑺線種

作図に使用する線の太さや矢印の種類、およびトーンの選択を行います。

・太さ
線の太さを選択します。
作図の前に選択すると、選択した線の太さで描かれ、作図後に指定すると、描いた線を変更することができます。
起動時には「細線」が選択されています。

・矢印
矢印の有無・方向を選択します。
直線を描く前に選択すると、選択した矢印で描かれ、描いた後に指定すると矢印を変更することができます。
起動時には「なし」が選択されています。

・トーン
図形の内部を塗りつぶす模様（トーン）を選択します。
作図前に選択しておくと、選択したトーンで塗りつぶされた図形が描かれ、作図後に指定すると塗りつぶされた図形のトーンを変更することができます。
起動時には「白」が選択されています。

(8)表示
レイアウト表示、および格子幅の大きさを指定します。

・レイアウト表示
描画を縮小して、１ページ全体を画面表示します。
作図の途中で、全体のバランスを見たいときなどに便利です。

・格子幅
描画画面にかける方眼の幅を選択します。メニューに表示されている数字の単位はドットです。
格子をかけると、作図のポイントはここで指定した格子幅の交点にしか指定できなくなります。

●作図アイコン
描く図形の種類や、文字入力機能、図形セレクト機能（編集、変更などを行う図形を指定する機能）を選択します。
起動時には「図形セレクト」が選択されています。

(1)図形セレクト（ ）
どの図形に対して、編集、または変更を行うのかを指定します。

(2)文字入力（ ）
文字が入力できる状態（文字入力モード）にします。

(3)直線（ ）
直線が描ける状態（直線モード）にします。

(4)四角形（ ）
四角形が描ける状態（四角形モード）にします。

(5)R型四角形（ ）
R型四角形（角が丸くなった四角形）が描ける状態になります。

(6)円・楕円（ ）
円または楕円が描ける状態（円モード）にします。

●表示ページ変更
作成中の描画が何ページかにわたる場合、ここで指定したページを画面表示します。

●スクロールバー
画面を上下左右にスクロールさせ、同じページ内の表示されていない部分を画面表示させます。

●マウスカーソル
ファンクションやアイコン、作図のポイントなどを指定します。マウスを動かすことによって、マウスカーソルを自在に移動することができます。また、マウスをご使用にならない場合は、グラフキーを押しながらカーソルキーを押してもマウスカーソルの移動ができます。

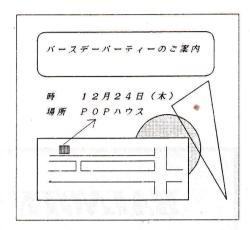
●セレクタ
現在セレクトされている図形につきます。このセレクタのついた図形に対して、編集や線種、字体、字種の変更ができます。

2章　入門編

HALNOTE

図形プロセッサ

入門編

1　バースデーパーティーの案内状を作る

いよいよ『図形プロセッサ』を使って、左図のような案内状を作ってましょう。
ここでは、基本的な機能の操作方法や作図のこつが自然に覚えられる仕組みになっていますので、マニュアルにそって、実際に動かしてみてください。
また、本マニュアルはマウスを使用することを前提として書かれています。マウスをご使用にならない場合は、「１章準備編２マウスとキーボード」を参照してください。

『図形プロセッサ』は、もう起動していますね。

１．紙の大きさを決める

せっかくきれいに作図したのに、印刷してみたら大きすぎたとか、小さすぎたなどということのないように作図の前にどのサイズの紙に印刷するのかを指定しておきます。
この指定を行っておくと、描画画面上に紙の大きさを示すガイドラインが表示されますので、この範囲内で安心して作図することができます。

①**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

新規　読込L
保存　更新S
登録R　組込G
追加読込
印刷形式
印
終了Q

②**「印刷形式」**を左クリック。メニューが消え、指定ウィンドウが表示されます。

◉A4 ○B5 ○A5 ○B6 設定
○8X11 ○はがき
◉連続紙 ○カット紙 中止

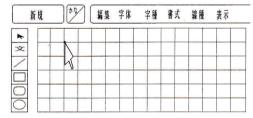
③印刷したい紙の大きさと種類を選んで、左クリック。選択した紙と方向の前に ◉ が表示されます。
※カット紙は１枚ずつ分かれた紙を指し、連続紙は両端に穴のあいたコンピュータ専用の紙を指します。

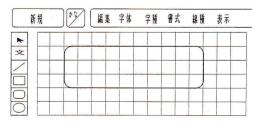
○A4 ◉B5 ○A5 ○B6 設定
○8X11 ○はがき
◉連続紙 ○カット紙 中止

④**「設定」**を左クリック。
指定ウィンドウが消え、紙の大きさに合ったガイドラインが描画画面上に表示されます。

2．R型四角形を描く

紙の大きさを指定したら、さっそく作図に入ります。
まず、タイトルを囲む飾り枠（R型四角形）を描きます。

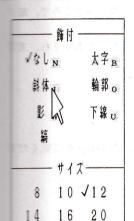
①マウスカーソルを ▢ に合わせて、左クリック。▢ が反転します。

②紙の大きさを示すガイドラインを目安に、飾り枠の左上端にあたる位置を左クリック。

③マウスカーソルを動かすと、動きに合わせて四角形の枠（ラバーバンド）が表示されます。
ラバーバンドはこれから描こうとするR型四角形の大きさの目安を示す働きがあります。

④ラバーバンドがちょうどよい大きさになったところで、再び左クリック。R型四角形が描かれます。

3．文字を入れる

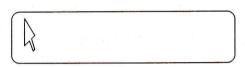
飾り枠が描けたところで、この中にタイトル文字（バースデーパーティーのご案内）を入れてみましょう。
同じように、場所や時間も書き入れます。

字体（飾り文字の種類や文字の大きさ）は、文字を入力する前に指定することも、入力した後に指定して変更することもできます。

①**「字体」**を左クリック。メニューが表示されます。

②**「飾付」**の中から、使用したい飾り文字の種類を選び、左クリック。（斜体などはいかがですか？）
メニューが消えます。

③再び**「字体」**を左クリック。メニューが表示されます。

④**「サイズ」**の中から、文字の大きさを選び、左クリック。
文字の大きさの単位はドットです。（ここでは、16ドット位が適当でしょう。あまり大きすぎると、飾り枠の中に入りきらなくなってしまいます。）
メニューが消えます。

⑤ [文] を左クリック。 [文] が反転し、文字入力モードになります。

⑥文字入力する領域を指定します。
先ほど描いた飾り枠の中にマウスカーソルを移動し、領域の開始点（左上端）を左クリック。

⑦マウスカーソルを動かすと、ラバーバンドが現れます。
ラバーバンドがちょうどよい大きさになったところで、左クリック。
指定した領域に□（セレクタといいます。）が表示され、文字カーソルが点滅します。

⑧文字を入力します。
入力方法については、「HALNOTE BOOK」をご覧ください。

⑨上記⑥～⑧の手順で、時間や場所も入力します。

バースデーパーティーのご案内

時　１２月２４日（木）
場所　ＰＯＰハウス

思ったとおりに文字が書けましたか？
もし、文字の飾りや大きさが気に入らない場合は、次の手順で変更することもできます。飾り付けについては、いくつもの種類の飾り付けを同時に選択することができます。例えば斜体の影文字とか縞付きの太文字など。いろいろ工夫してみてください。（選択されている飾り付けを解除するには左クリック。）

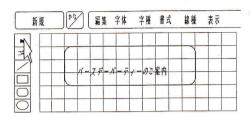
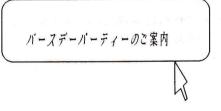
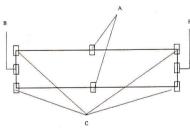
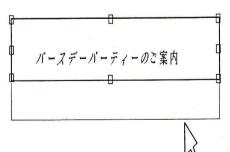
①文字領域にセレクタが表示されていることを確認します。
※セレクタが表示されていない場合は、描画画面の を左クリックしてから、マウスカーソルを文字上に合わせ、再び左クリックします。文字領域にセレクタが表示され、変更や編集の対象となります。この操作をセレクトといいます。

②**「字体」**を左クリック。メニューが表示されます。

③変更後の**「飾付」**や**「サイズ」**を選択して、左クリック。
セレクタがついている範囲の文字が選択した「飾付」、「サイズ」に変更されます。

4．描いた図形を拡大・縮小する

文字はきちんと飾り枠の中に入れられましたか？
もし、飾り枠が大きすぎたり小さすぎたりした場合は、図形の拡大・縮小で簡単に修正することができます。

① [矢印アイコン] を左クリック。[矢印アイコン] が反転します。

②飾り枠の線上にマウスカーソルを合わせ、左クリック。
図形にセレクタが表示され、拡大・縮小ができる状態（セレクト）になります。

③表示されたセレクタにマウスカーソルを合わせ、左クリック。
マウスカーソルを動かすと、ラバーバンドが表示されます。
※どのセレクタを左クリックするか（左図Ａ～Ｃ）によって拡大・縮小の方向が変わります。
Ａ……垂直方向に拡大・縮小
Ｂ……水平方向に拡大・縮小
Ｃ……垂直、水平方向同時に拡大・縮小

④ラバーバンドが適当な大きさになったところで、左クリック。
飾り枠がラバーバンドの大きさに拡大・縮小されます。

5．格子幅を決める

次は、地図ですが、その前に便利な機能をご紹介しましょう。

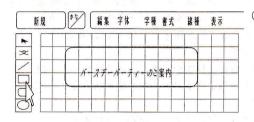
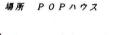
地図のような正確な図形を描くのに、便利なのが格子機能です。この機能は、描画画面上に目安の方眼を表示させ、作図のポイント（開始点や終点など）を指定した格子幅にのみ指定できるようにするものです。
格子機能を使用すると、長さや距離が一目でわかり、また、指定できるポイントが決まりますので線が描き易くなります。

①**「表示」**を左クリック。メニューが表示されます。

レイアウト表示
格子幅
0 2 3
√4 5 6
7 8 9
10 12 14

②**「格子幅」**の中から、適切な大きさを左クリック。メニューに表示されている数字の単位は「ドット」です。
メニューが消え、描画画面に目安の格子（方眼）が表示されます。

6．四角形、直線を描く

まず、地図の枠（四角形）から。
描き方は、先ほどのＲ型四角形と殆ど同じです。

① □ を左クリック。 □ が反転します。

②描こうとする四角形の左上端にマウスカーソルを合わせて、左クリック。
マウスカーソルを動かすと、四角形のラバーバンドが表示されます。

時　１２月２４日（木）
場所　ＰＯＰハウス

③ラバーバンドがちょうどよい大きさになったところで、左クリック。
ラバーバンドのとおりに、四角形が描かれます。

バースデーパーティーのご案内

時　１２月２４日（木）
場所　ＰＯＰハウス

次は、この枠の中に直線で地図を描いていきます。

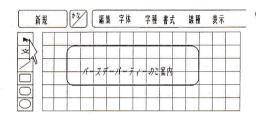
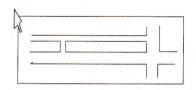
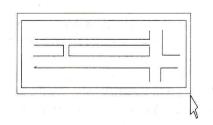
① ／ を左クリック。 ／ が反転します。

②直線を描き始める点（始点）にマウスカーソルを合わせて、左クリック。
マウスカーソルを動かすと、直線のラバーバンドが表示されます。

③ラバーバンドが描きたい直線の長さと方向になったところで、再び左クリック。ここが終点となります。
ラバーバンドのとおりに、直線が描かれます。
描いた直後の直線はセレクトされていますので、右クリックして、セレクトを解除します。

④②～③を繰り返して、１本ずつ描いていきます。
※描いた直線の方向や長さを修正するには、その直線をセレクトし、直線上に表示されたセレクタにマウスカーソルを合わせて、左クリック。マウスカーソルの先についてラバーバンドが表示されますので、目的の長さ、方向になったところで、左クリック。直線の長さ、方向が修正できます。

7．図形を合体する

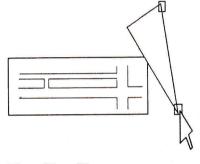
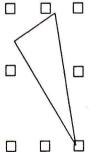
描いた地図は何本かの直線と枠とからできています。
これらは、１つずつ別々の図形として取り扱われるため、編集作業を行うときなどに不便です。
このような図形は合体を行い、１つの図形として取り扱えるようにしておくと便利です。

① を左クリック。 が反転します。

②合体する範囲を指定します。
描いた地図を完全に囲む範囲の左上端にマウスカーソルを移動し、左クリック。（ここが始点となります。）
マウスカーソルの動きに合わせて、四角形のラバーバンドが表示されます。

③ラバーバンドが地図を囲む位置まで、マウスカーソルを移動し、左クリック。（終点が決まります。）
個々の図形全部にセレクタが表示され、合体する図形が指定されます。

④**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

⑤**「合体」**を左クリック。
②で指定した図形が合体され、新たに□が表示されます。

8．三角形を描く

四角形以外の多角形はすべて直線を使って描きます。
ここでは、三角形を描いてみましょう。

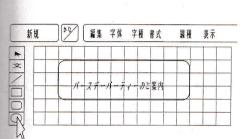
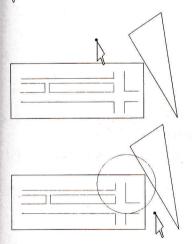
① ／ を左クリック。 ／ が反転します。

②地図を描いたときの要領で、始点と終点を指定して三角形を描きます。

③②で描いた３本の直線を、地図のときと同じ方法で合体します。
３本の直線が１つの図形となり、三角形として扱うことができるようになります。

9．円を描く

次は円です。
トーンを選んでから、描いてみましょう。

①**「線種」**を左クリック。メニューが表示されます。

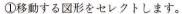
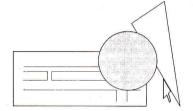
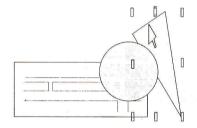
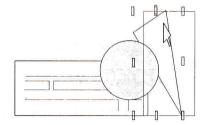
②**「トーン」**の中から使いたいトーンを選んで、左クリック。
　メニューが消えます。

③ ◯ を左クリック。 ◯ が反転します。

④左図のように始点を決め、左クリック。
　マウスカーソルを動かすと、円のラバーバンドが表示されます。

⑤ラバーバンドがちょうどよい大きさになったところで、左クリック。ここが終点となります。
　ラバーバンドのとおりに円が描かれ、中が②で選択したトーンで塗りつぶされます。
　※円は左図のように、始点と終点を結ぶ直線を対角線とする四角形（画面には表示されません。）にちょうど内接するように描かれます。

10. 図形を移動する

円や三角形は思ったとおりの位置に描けましたか？
「ちょっとバランスが悪かったかな？」というときのために、描いた図形を移動する方法を説明しましょう。

①移動する図形をセレクトします。

を左クリックしてから、マウスカーソルを移動したい図形の線上に合わせ、再び左クリック。図形にセレクタが表示され、移動の対象になります。

②セレクトした図形の線上（セレクタの表示されていないところ）にマウスカーソルを合わせ、左クリック。
マウスカーソルを動かすと、ラバーバンドが表示されます。

③図形の移動先にラバーバンドがきたら、左クリック。ラバーバンドの位置に図形が移動、表示されます。
②～③を繰り返すと、何度でも移動することができます。

11. 前出し・後送り

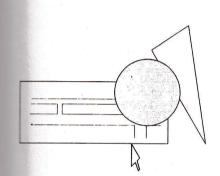
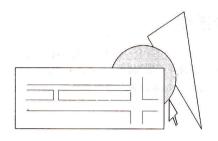
もうお気づきかと思いますが、地図の上に円や三角形が重なってしまっています。(図形を描いた順番になっています。)
この3つの図形を、次のような順番に重ね直しましょう。

前（上）	地図
中	三角形
後（下）	円

①地図をセレクトします。(セレクトの方法は、もう大丈夫ですね。もし、忘れてしまった方は「10. 図形を移動する」の①～②をご覧ください。)
地図はすでに合体されていますので、1図形として、扱うことができます。
地図にセレクタが表示されます。

②「**編集**」を左クリック。メニューが表示されます。

復元 Z 消去 K
切取 X 貼込 V
複写 C 複製 D
前出 < 後送 >
合 + 分離 −
文字枠詰 F
総選択 A

③「**前出**」を左クリック。
地図が円や三角形の前（上）に重なり、表示されます。

④円をセレクトします。
　セレクタが表示されます。

⑤**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

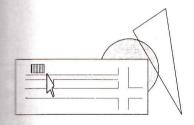
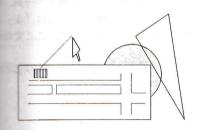
復元	Z	消去	K
切取	X	貼込	V
複写	C	複製	D
前出	<	後送	>
合体	+	分[illegible]	−
文字枠詰			F
総選択			A

⑥**「後送」**を左クリック。
　円が三角形の後ろ（下）に表示されます。

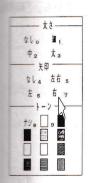
以上で、重ね合わせの順番が決まりました。

12. 仕上げ、矢印

いよいよ、仕上げの段階です。
地図上の場所を示す四角形と矢印を描き入れます。
まず四角形、続いて矢印を描きます。

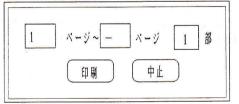
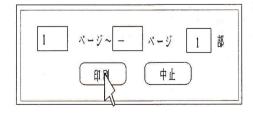
①右クリックして、図形セレクトを解除してからトーンを選択します。（「6．四角形、直線を描く」の①～②）

②四角形を描きます。（「6．四角形、直線を描く」）
①で選択したトーンで塗りつぶされた四角形が描かれます。
右クリックで、四角形のセレクトを解除します。

③直線を描きます。（「6．四角形、直線を描く」）
直線にセレクタがついていることを確認してください。（作図した直後の図形は、自動的にセレクトされています。）

④**「線種」**を左クリック。メニューが表示されます。

⑤**「矢印」**の中の**「右」**を左クリック。
メニューが消え、③で描いた直線に矢印がつきます。

13. 印刷

案内状ができたところで、次は印刷です。
まず、印刷するページ、部数を指定してから、印刷を実行します。

①**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

②**「印刷」**を左クリック。設定ウィンドウが現れます。

③この設定ウィンドウでは、印刷開始ページと終了ページ、部数をキーボードから入力しますが、開始ページには「1」が、部数にも「1」がすでに表示されていますので、ここでは確認のみ行います。
※終了ページ欄に数字を入力しなければ、最終ページまで印刷されます。

④プリンタの電源、用紙のセットなどを確認してから、**「印刷」**を左クリック。
印刷が実行されます。
印刷が終了すると、元の画面に戻ります。

14. 保存・終了

印刷は思ったとおりにできましたか？
最後に、案内状をきちんとデータディスクに保存して、描画を終了しましょう。
保存を忘れて終了すると、せっかく描いた案内状は消えてしまいます。
データディスクの準備はできていますね。(まだの方は「HALNOTE BOOK」を参照してディスク初期化を行います。

①データディスクをドライブBに差し込みます。

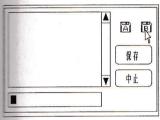
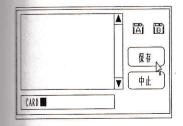
②**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「保存」**を左クリック。左下図のようなウィンドウが表示され、「文字入力エリア」に文字カーソルが点滅しています。

④ [B] を左クリック。ウィンドウにデータディスクに入っているファイルの一覧が表示されます。

⑤ファイルネームをつけ、キーボードから入力します。ファイルネームは半角文字で8文字、全角文字で4文字以内です。
文字入力方法については、「HALNOTE BOOK」をご覧ください。リターンキーで確定。

⑥ウィンドウ上の**「保存」**を左クリック。
ウィンドウが消えます。
「タイトルメニュー」の欄にファイルネームが表示され、保存が終了すると元の画面に戻ります。

新規　読込L
保存　更新S
登録R　組込G
追加読込
印刷形式
印刷P
終了Q

⑦**「タイトルメニュー」**（ファイルネームが表示されています。）を左クリック。メニューが表示されます。

⑧**「終了」**を左クリック。「終了しますか」と表示されます。

⑨**「はい」**を左クリック。『図形プロセッサ』の描画画面が消え、『バインダ』の画面が現れます。

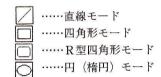
3章　機能編

HALNOTE

図形プロセッサ

機能編

1 作　図

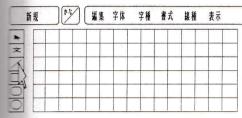
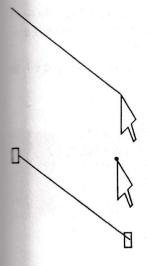
直線、四角形、R型四角形(角が丸くなった四角形)、円または楕円を描きます。
描画画面上のアイコンを左クリックすることにより、それぞれの図形を描ける状態（作図モード）になります。
各アイコンは次のとおり。

これらのモードは他の作図モードを選択するまで有効です。
また、作図する前に「線種」の指定をしておくと、指定した線や矢印または、トーンで描かれます。（3章 機能編　3 線の太さ・矢印の種類・トーンの選択と変更）

描いた直後の図形には、自動的にセレクタがつき、図形セレクトされている状態となっています。

1. 直線

始点と終点を指定し、この2点間を結ぶ直線を引く機能です。

①線種の選択をします。（3章 機能編　3 線の太さ・矢印の種類・トーンの指定と変更）

② ［／］ を左クリック。［／］ が反転し、直線モードになります。

③直線を描き始める点（始点）にマウスカーソルを合わせ、左クリック。

④マウスカーソルを移動します。
マウスカーソルの動きに合わせて、目安の直線（ラバーバンド）が表示されます。描く直線の長さと方向が決まったら、左クリックで、終点を決めます。
※右クリックすると、ラバーバンドは消え、再び始点から指定し直すことができます。

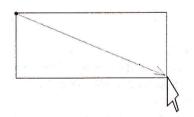
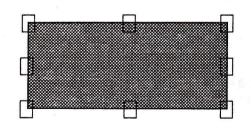
⑤指定した線種で直線が描かれます。
続けて直線を引くときは、③～④を繰り返します。

2．四角形

始点と終点を指定し、この２点間を結ぶ直線を対角線とする四角形を描きます。

①線種の選択をします。（３章 機能編　３ 線の太さ・矢印の種類・トーンの指定と変更）

② □ を左クリック。 □ が反転し、四角形モードになります。

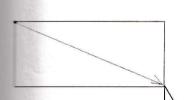
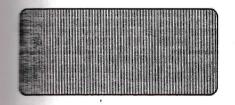
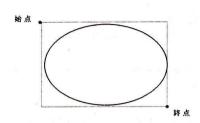
③対角線の始点にマウスカーソルを合わせ、左クリック。

④マウスカーソルを移動します。
マウスカーソルの動きに合わせて、目安の四角形（ラバーバンド）が表示されます。描く四角形の大きさと方向が決まったら、左クリックで終点を決めます。
※右クリックすると、ラバーバンドは消え、再び始点から指定し直すことができます。

⑤指定した線種、トーンで四角形が描かれます。
続けて四角形を描くときは、③～④を繰り返します。

3．R型四角形

角が丸くなった四角形を描きます。
始点と終点を指定し、この2点を結ぶ直線が対角線となります。

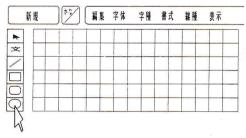
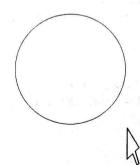
①線種の選択をします。（3章 機能編　3 線の太さ・矢印の種類・トーンの指定と変更

② □ を左クリック。 □ が反転し、R型四角形モードになります。

③対角線の始点にマウスカーソルを合わせ、左クリック。

④マウスカーソルを移動します。
マウスカーソルの動きに合わせて、目安の四角形（ラバーバンド）が表示されます。描く四角形の大きさと方向が決まったら、左クリックで終点を決めます。
※右クリックすると、ラバーバンドは消え、再び始点から指定し直すことができます。

⑤指定した線種、トーンでR型四角形が描かれます。
続けてR型四角形を描くときは、③～④を繰り返します。

4. 円・楕円

始点と終点を指定し、この2点を結ぶ直線を対角線とする四角形にちょうど内接する円（楕円）を描きます。（左図）
内接する四角形が正方形になるように始点と終点を決めれば、正円が、長方形になるように決めれば、楕円が描けます。

①線種の選択をします。（3章 機能編　3 線の太さ・矢印の種類・トーンの指定と変更）

② ◯ を左クリック。 ◯ が反転し、円モードになります。

③始点にマウスカーソルを合わせ、左クリック。

④マウスカーソルを移動します。
マウスカーソルの動きに合わせて、目安の円（ラバーバンド）が表示されます。円の大きさと位置が決まったら、左クリックで終点を決めます。
※右クリックすると、ラバーバンドは消え、再び始点から指定し直すことができます。

⑤指定した線種で円が描かれます。
　続けて円を描くときは、③〜④を繰り返します。

2 図形セレクト

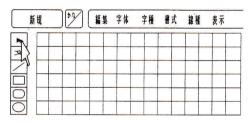
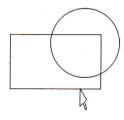
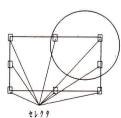
描いた図形を編集したり、線の太さ、矢印の種類やトーンを変更するには、まず、「どの図形に対して行うのか」を指定しなければなりません。これを「図形セレクト」といいます。

図形セレクトの方法には、ポイントセレクトとボックスセレクト、および総選択（オールセレクト）があります。

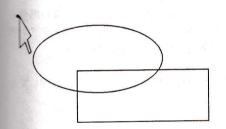
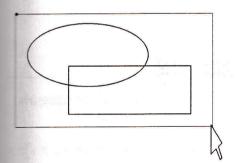
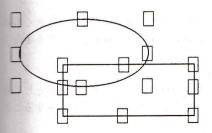
セレクトされた図形には□（セレクタ）がつき、編集や線種、字体、字種の変更ができる状態であることがわかります。
他の図形をセレクトしたり、新たに作図を開始すると、セレクタが消え、セレクトは解除されます。
また、右クリックしてもセレクトは解除されます。描いた直後の図形は、自動的にセレクトされています。

1. ポイントセレクト

各図形単位でセレクトする方法です。この方法はいくつかの重なった図形のうちの1つをセレクトするような場合に便利です。

① [矢印アイコン] を左クリック。[矢印アイコン] が反転し、図形セレクトができる状態（セレクトモード）になります。

②セレクトしたい図形の線上（文字の場合は、文字上）にマウスカーソルを合わせ、左クリック。

③セレクトした図形にセレクタが表示され、この図形が編集や線種変更の対象となります。

2．ボックスセレクト

始点と終点を指定し、この2点を対角線とする四角形の範囲にすっぽり入る図形をすべてセレクトします。
複数の図形を同時にセレクトしたい場合に便利です。

① [矢印アイコン] を左クリック。[矢印アイコン] が反転し、図形セレクトができる状態（セレクトモード）になります。

②セレクトしたい図形のある範囲の一角を左クリック。ここが始点となります。

③マウスカーソルの動きに合わせて目安の四角形（ラバーバンド）が表示されます。
ラバーバンドがセレクトしたい図形全体を囲む位置まで、マウスカーソルを移動します。
※右クリックすると、ラバーバンドは消え、再び始点から指定し直すことができます。

④左クリック。
セレクトした図形全部にセレクタが表示され、これらの図形が編集や線種変更の対象となります。

3．総選択（オールセレクト）

画面表示されていない部分も含め、1ページ内の図形すべてをセレクトします。
1ページの中にある図形全部を対象に、編集したり、線種変更したりする場合に便利です。

新規　かな　編集　字体　字種　書式　線種　表示

①「**編集**」を左クリック。メニューが表示されます。

復元 Z　消去 K
切取 X　貼込 V
複写 C　複製 D
前出 <　後送 >
合体 +　分離 −
文字枠詰 F
総選択 A

②「**総選択**」を左クリック。現在画面表示されていない部分も含めて、1ページ全体の中にある図形すべてにセレクタが表示され、編集や線種変更の対象になります。
※もう1つの指定方法
グラフキーを押しながら、キーボードの「A」を押しても総選択を実行できます。

4．図形の合体・分離

複数の図形を1つの図形として扱えるようにする機能が合体、合体した図形を個々の図形に戻す機能が分離です。

合体を行うと、ポイントセレクトで複数の図形をセレクトできるようになります。
このため、いくつかの図形を同時に編集したり、たくさんの重なり合った図形の中から特定の図形だけ編集したりする場合に便利です。

また、一度合体した図形は分離を行うまで1つの図形として扱われますので、ポイントセレクトで何度でもセレクトすることができます。

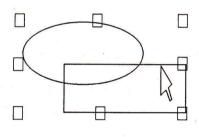
（合体）

① を左クリック。 が反転し、図形セレクトができる状態（セレクトモード）になります。

②合体したい図形のある範囲の一角を左クリック。ここが始点となります。

③マウスカーソルの動きに合わせて目安の四角形（ラバーバンド）が表示されます。
ラバーバンドが、合体したい図形全体を囲む位置まで、マウスカーソルを移動します。

④左クリック。
セレクトした図形全部にセレクタが表示され、これらの図形が合体の対象となります。

⑤**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

⑥**「合体」**を左クリック。
セレクトした図形が合体され、セレクタが表示されます。
※もう１つの合体方法
合体する図形をセレクトした後、グラフキーを押しながらキーボードの「＋」を押します。

（分離）

① を左クリック。 が反転し、図形セレクトができる状態（セレクトモード）になります。

②分離したい図形の任意の線上を左クリック。
セレクトした図形にセレクタが表示され、分離の対象となります。

③**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

④**「分離」**を左クリック。
セレクトした図形が分離され、個々の図形にセレクタが表示されます。
※もう１つの分離方法
分離する図形をセレクトした後、グラフキーを押しながらキーボードの「－」を押します。

3　線の太さ・矢印の種類・トーンの指定と変更

これから描こうとする図形の線種指定、および一度描いた図形の線種変更を行います。

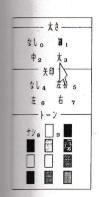
「線種」では、線の太さ、矢印の種類、図形を塗りつぶす模様（トーン）を選択します。

1．線の太さ

線の太さには、なし・細線・中線・太線の4種類が用意されています。直線、四角形、R型四角形、円を描くときには、ここで選択した太さの線が使用されます。
作図の前に選択すると、選択した太さの線で描かれ、作図後に選択すると、描いた図形の線を変更することができます。
起動時には「細線」が選択されています。
また「なし」を選択すると、線が表示されなくなります。
輪郭のないトーンだけの図形を描きたい場合などに便利です。

（指定）

①**「線種」**を左クリック。メニューが表示されます。

②使用したい線の太さ、を左クリック。
メニューが消えます。
※ここで、指定した線の太さは、新たに他の線の太さを指定するまで、有効です。

③作図を開始します。②で選択した太さの線で、図形が描かれます。

※線の太さを指定するもう１つの方法
グラフキーを押しながら、「0」(なし)「1」(細線)「2」(中線)「3」(太線)の各文字キーを押します。(テンキーから指定することはできません。)

(変更)

①変更したい図形をセレクトします。

②**「線種」**を左クリック。メニューが表示されます。

※メニューでは、現在セレクトされている図形の線の太さにチェックマークがついています。
また、線の太さが異なる複数の図形をセレクトした場合はチェックマークは表示されません。

③変更したい線の太さを左クリック。
メニューが消え、セレクトした図形の線の太さが変更されます。

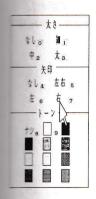
※ここで選択した線の太さは、一時的なものですので、新たに作図する場合は元の線の太さで描かれます。
※線の太さを指定するもう１つの方法
グラフキーを押しながら、「0」(なし)「1」(細線)「2」(中線」「3」(太線)の各文字キーを押します。(テンキーから指定することはできません。)

2．矢印の種類

矢印の種類には、左、右、および左右両方向矢印の３種類があります。また、矢印のつかない直線を描きたい場合は「なし」を選択します。
矢印は、直線モードのみ使用できます。矢印の種類を選択しても他の図形モードでは機能しません。
直線を描く前に選択すると、選択した矢印がつき、描いた後に選択すると描いた直線に矢印をつけることができます。
起動時には「なし」が選択されています。

（指定）

①**「線種」**を左クリック。メニューが表示されます。

②使用したい矢印を左クリック。メニューが消えます。
※ここで、指定した矢印は、新たに他の矢印を指定するまで有効です。

③直線を描きます。②で選択した矢印がつきます。
※矢印を指定するもう１つの方法
グラフキーを押しながら、「4」（なし）「5」（左右）「6」（左）「7」（右）の各文字キーを押します。（テンキーから指定することはできません。）

（変更）

①変更したい直線をセレクトします。

②「**線種**」を左クリック。メニューが表示されます。
※メニューでは、現在セレクトされている直線の矢印の種類にチェックマークがついています。
また、矢印の種類が異なる複数の直線をセレクトした場合はチェックマークは表示されません。

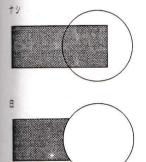
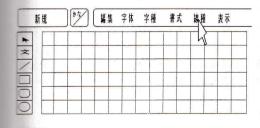
③変更したい矢印の種類を左クリック。
メニューが消え、セレクトした直線の矢印が変更されます。
※ここで選択した矢印は、一時的なものですので、新たに作図する場合は元の矢印で描かれます。
※矢印を指定するもう１つ方法
グラフキーを押しながら、「4」（なし）「5」（左右）「6」（左）「7」（右）の各キーを押します。(テンキーから指定することはできません。)

3．トーン

四角形、R型四角形、円モードでは、作図の前にトーンを選択しておくと、選択したトーンで内部が塗りつぶされた図形が描かれます。
作図した後に、トーンの選択を行うと、内部の模様を変更することができます。
起動時には、「白」が選択されています。

※ナシと白
　トーンにはナシと白が用意されています。
　「ナシ」はセロファン、「白」は白い紙のようなものです。
　図形を重ねて描くと、ナシは下側の図形が透けて見え、白は下側の図形の上に重なって表示されます。

（指定）

①**「線種」**を左クリック。メニューが表示されます。

②使用したいトーンを左クリック。
　メニューが消えます。
　※ここで指定したトーンは新たに他のトーンを指定するまで有効です。

③作図を開始します。②は選択したトーンで図形が描かれます。
※「ナシ」と「白」はグラフキーを押しながら文字キーを押して選択することもできます。
「ナシ」はグラフキーと「8」、「白」はグラフキーと「9」を押します。(テンキーから指定することはできません。)

(変更)

①変更したい図形をセレクトします。

②**「線種」**を左クリック。メニューが表示されます。
※メニューでは、現在セレクトされている図形のトーンの種類にチェックマークがついています。
トーンが異なる複数の図形をセレクトした場合は、チェックマークは表示されません。

③変更したいトーンを左クリック。
メニューが消え、セレクトした図形の内部のトーンが変更されます。
※「ナシ」と「白」はグラフキーを押しながら文字キーを押して選択することもできます。
「ナシ」はグラフキーと「8」、「白」はグラフキーと「9」を押します。(テンキーから指定することはできません。)
※ここで選択したトーンは一時的なものですので、新たに作図する場合は元のトーンで描かれます。

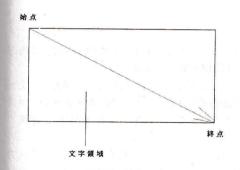
4　文字入力

描画の中に文字を入力します。
描画画面上のアイコン（ 文 ）を左クリックすることにより文字を入力できる状態（文字入力モード）になります。
文字入力モードは作図モードの一種ですので、他の作図モードを選択するまで有効です。

文字入力の前に「字体」、「字種」および「書式」の指定をしておくと、選択した飾り付け、大きさ、字種、書式で入力、表示されます。また、文字入力後に「字体」、「字種」、「書式」の指定をすると、一度入力した文字の飾り付けや大きさ、形、書式などを変更することができます。

1．文字の入力

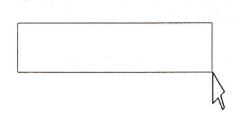
文字領域を指定してから、その中に文字を入力していきます。
文字領域は、四角形の作図と同じ要領で始点と終点を指定し、この２点間を結ぶ直線を対角線とする四角形の範囲となります。

また、文字の変更や、書式設定、移動、削除などの編集時においては、この文字領域が、図形セレクトの単位となり、１図形として取り扱われます。

① 文 を左クリック。 文 が反転し、文字入力モードになります。

②文字領域を指定します。

文字を入力する領域の開始点にマウスカーソルを合わせて、左クリック。

マウスカーソルを動かすと、四角形のラバーバンドが表示されます。

※右クリックすると、ラバーバンドは消え、再び始点から指定し直すことができます。

③ラバーバンドがちょうどよい大きさになったところで、左クリック。ここが終点です。

ラバーバンドで囲まれた範囲にセレクタが表示され、文字カーソルが点滅します。

学園祭

④キーボードから、文字を入力します。具体的な入力、変換方法は「HALNOTE BOOK」をご覧ください。

※入力した文字が多すぎて、文字領域をこえる場合、こえた分については画面表示されません。画面表示させるには文字領域をセレクトし、拡大・縮小（3章 機能編 5編集）を行います。

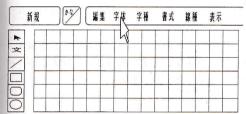
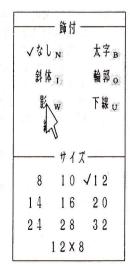
※同じ文字領域内に追加して文字入力する場合は、文字入力モードの状態で入力したい文字領域内を左クリック。文字領域内にカーソルが現れ、文字を入力できるようになります。

2．文字の飾り付け

文字の飾り付けの種類には、「太字」「斜体」「輪郭」「影」「下線」「縞」が用意されています。
また、飾り付けはいくつもの種類を同時に選択することができます。
飾り付けを行わないときは「なし」を選択します。（起動時には「なし」が選択されています。）
飾り付けは文字領域単位で設定されますので、1つの文字領域内では異なる飾り付けを指定することはできません。
また、同じ文字領域内に新たに文字を入力（挿入）した場合にも設定されている飾り付けで入力されます。

（指定）

①文字領域にセレクタが表示されていないことを確認します。

②**「字体」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「飾付」**の中から使用したい飾り付けを選択し、左クリック。メニューが消えます。

※ここで指定した「飾付」は、新たに他の「飾付」を指定するまで、有効です。

※飾り付けは、いくつもの種類を同時に選択することができます。メニューは1回左クリックするごとに消えますので1種類選択するたびに、②～③を繰り返します。選択されている飾り付けを解除するには、マウスカーソルを合わせて、左クリック。

※グラフキーを押しながら、文字キーを押しても飾り付けを選択することができます。
各飾り付けに対応する文字キーは、メニューに表示されていますので、グラフキーとこの文字キーを押します。

④文字入力を開始します。(「1．文字の入力」)
③で指定した「飾付」で文字が表示されます。

(変更)

①変更したい文字領域をセレクトします。

②**「字体」**を左クリック。メニューが表示されます。
※メニューでは、現在セレクトされている文字領域の飾り付けにチェックマークがついています。
ただし、いくつかの文字領域を同時にセレクトした場合、その中に飾り付けの異なる文字があると、共通する飾り付けのみにチェックマークがつきます。

③**「飾付」**の中から、追加したい飾り付けを選択し、左クリック。メニューが消え、①で指定した領域内の文字に新しく選択した飾り付けが追加され、文字が変更されます。
※ここで、選択した飾り付けは、一時的なものですので、新たに入力する場合は元の飾り付けで表示されます。
※飾り付けは、いくつもの種類を同時に選択することができます。選択されている飾り付けを解除するにはマウスカーソルを合わせて左クリック。
※グラフキーを押しながら、文字キーを押しても飾り付けを選択することができます。
各飾り付けに対応する文字キーは、メニューに表示されていますので、グラフキーとこの文字キーを押します。

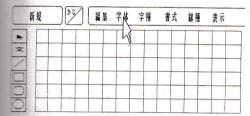
3．文字のサイズ

文字の「サイズ」には、全部で10種類の大きさが用意されています。（数字の単位はドットです）
起動時には「12ドット」が選択されています。
文字のサイズは文字領域単位で設定されますので、１つの文字領域内では異なる文字サイズを指定することはできません。
また、同じ文字領域内に新たに文字を入力（挿入）した場合にも設定されている文字サイズで入力されます。

（指定）

①文字領域にセレクタが表示されていないことを確認します。

②**「字体」**を左クリック。メニューが表示されます。

飾付
✓なし N　太字 B
斜体 I　輪郭 O
影 W　下線 U
縞
サイズ
8　10　✓12
14　16　20
24　2　32
12×8

③**「サイズ」**の中から使用したい大きさを選択し、左クリック。
メニューが消えます。
※ここで指定した「サイズ」は、新たに他の「サイズ」を指定するまで、有効です。

④文字入力を開始します。（「１．文字の入力」）
③で指定した「サイズ」で文字が表示されます。

（変更）

①変更したい文字領域をセレクトします。

②**「字体」**を左クリック。メニューが表示されます。

※メニューでは、現在セレクトされている文字領域のサイズにチェックマークがついています。
ただし、いくつかの文字領域を同時にセレクトした場合、その中に異なるサイズがあった場合は、チェックマークはつきません。

③**「サイズ」**の中から、変更したい大きさを選択し、左クリック。メニューが消え、①で指定した領域内の文字が変更されます。

※ここで、選択したサイズは、一時的なものですので、新たに入力する場合は元のサイズで表示されます。

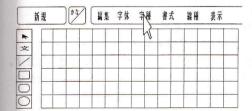
※文字サイズを変更したことによって、入力されていた文字が文字領域からはみ出し、画面から消えてしまった場合には、文字領域を拡大・縮小（3章 機能編 5編集）すれば、消えた文字を再び表示させることができます。

4．字種

字種には、英数字のみ、9種類のフォント（文字のデザイン）が用意されています。
標準のフォントを使用する場合は「標準字体（12)」または「標準字体（16)」を選択します。字種の後ろに表示されている数字は文字の大きさ（ドット）を表します。

字種は文字領域単位で設定されますので、1つの文字領域内では異なる字種を指定することはできません。また、同じ文字領域内に新たに文字を入力（挿入）した場合にも設定されている字種で入力されます。
また、「標準字体」、「ROM(12×8)」以外の字種を選択すると、英数文字しか入力できなくなります。
かな、漢字を入力する場合には、「標準字体」か「ROM（12×8)）を選択します。

（指定）

①文字領域にセレクタが表示されていないことを確認します。

②**「字種」**を左クリック。メニューが表示されます。

③使用したい字種を選択し、左クリック。
標準のフォントを使用したい場合は、**「標準字体」**を左クリック。
メニューが消えます。
※ここで指定した字種は、新たに他の字種を指定するまで、有効です。

④文字入力を開始します。（「1．文字の入力」）
③で指定した字種で文字が表示されます。

（変更）

①変更したい文字領域をセレクトします。

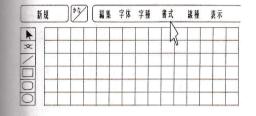
②**「字種」**を左クリック。メニューが表示されます。
※メニューでは、現在セレクトされている文字領域の字種にチェックマークがついています。
ただし、いくつかの文字領域を同時にセレクトした場合、その中にいくつかの異なる字種があった場合、または「字体」で指定した文字サイズと、字種名の後に表示されている文字サイズが一致しない場合は、チェックマークはつきません。

③変更したい字種フォントを選択し、左クリック。標準のフォントを使用したい場合は、**「標準字体」**を左クリック。
メニューが消え、①で指定した領域内の文字が変更されます。
※ここで、選択した字種は、一時的なものですので、新たに作図する場合は元の字種で入力されます。

5．左寄せ、右寄せ、センタリング

文字を文字領域内の各行の中央（センタリング）、右端（右寄せ）、左端（左寄せ）に表示する機能です。
この機能は、文字領域単位で設定されますので、設定後、同じ文字領域内に文字を入力すると、新たに入力した文字も自動的に左寄せ、右寄せ、センタリングされます。
文字入力前に設定すると、設定した書式で表示され、文字入力後に設定すると、入力した文字の書式を変更することができます。

（指定）

①文字領域にセレクタが表示されていないことを確認します。

②**「書式」**左クリック。メニューが表示されます。

③設定したい書式を選択し、左クリック。
※ここで指定した書式は新たに他の書式を指定するまで有効です。
※グラフキーを押しながら「[」(左寄せ)、「]」(右寄せ)、「¥」(センタリング）を押しても指定できます。

④文字入力を開始します。（「1．文字の入力」）
③で指定した書式で文字が表示されます。

ピアノリサイタルのご案内
時　11月25日
場所　ストリートホール

（変更）

①書式設定したい文字領域をセレクトします。

②**「書式」**を左クリック。メニューが表示されます。
※メニューでは、現在セレクトされている文字領域の書式にチェックマークがついています。ただし、いくつかの文字領域を同時にセレクトした場合、その中に異なる書式が設定されているとチェックマークはつきません。

③設定したい書式（左寄せ、右寄せ、センタリング）を左クリック。メニューが消え、①で指定した領域内の文字が設定した書式で表示されます。
※ここで、設定した書式は、一時的なものですので、新たに文字入力する場合は元の書式で入力されます。
※グラフキーを押しながら「[」(左寄せ)、「]」(右寄せ)、「￥」(センタリング）を押しても指定できます。

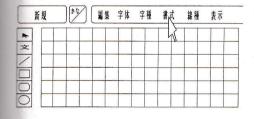
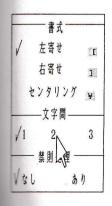
6. 文字間

文字と文字の間隔を調整する機能です。「1」は1ドット、「2」は2ドット、「3」はドット分の間隔をあけます。
数字が大きくなるほど文字と文字の間隔があきます。
文字間は文字領域単位で設定されますので、1つの文字領域内では、異なる字間を指定することはできません。同じ文字領域内に新たに文字を入力（挿入）した場合にも設定されている字間で表示されます。

起動時には「1」が選択されています。

（指定）

①文字領域にセレクタが表示されていないことを確認します。

②**「書式」**を左クリック。メニューが表示されます。

③設定したい文字間を選択し、左クリック。メニューが消えます。
※ここで指定した文字間は他の文字間を指定するまで有効です。

④文字入力を開始します。（「1. 文字の入力」）
③で指定した文字間で文字が表示されます。

（変更）

①文字間を変更したい文字領域をセレクトします。

②**「書式」**を左クリック。メニューが表示されます。
※メニューでは、現在セレクトされている文字領域の文字間にチェックマークがついています。

③変更したい文字間を左クリック。メニューが消え、①で指定した領域内の文字が設定した文字間で表示されます。
※ここで設定した文字間は、一時的なものですので、新たに文字入力する場合は元の文字間で入力されます。
※文字間を変更したことによって、入力されていた文字領域からはみだし、画面から消えてしまった場合には、文字領域を拡大・縮小（3章 機能編　5 編集）すれば、消えた文字を再び表示させることができます。

7．禁則処理

A　禁則処理あり

そして夏が過ぎ、親しかった友達はみ
な、自分の仕事へと戻っていきました。
わたしが住んでいる海辺の小さな町は、
またもとの静けさをとりもどしました。

B　禁則処理なし

そして夏が過ぎ、親しかった友達はみな
、自分の仕事へと戻っていきました。
わたしが住んでいる海辺の小さな町は、
またもとの静けさをとりもどしました。

行頭に句読点（、。）や受けの括弧（」、）、｝、〕など）を表示させないようにする処理を禁則処理といいます。ここでは、この処理を行うかどうかを選択することができます。
禁則処理をすると、左図のように文字領域の右端１列が、句読点および受けの括弧のために確保され、句読点や括弧以外の文字は入力できなくなります。行頭に句読点や受けの括弧がきたときには､前行右端の確保されている列に繰り上げて表示します。
禁則処理をしないようにすると、文字領域の右端一杯まで文字入力されますので、句読点や受けのかっこが行頭にきたときも、そのまま表示されます。
禁則処理の選択は、文字領域単位で設定されますので、同じ文字領域内ならば、すべて同じ禁則処理が行われます。追加して文字入力した場合も指定の処理で表示されます。
起動時には「なし」が選択されています。

（指定）
①文字領域にセレクタが表示されていないことを確認します。
②**「書式」**を左クリック。メニューが表示されます。
③「禁則処理」の中の**「あり」**または**「なし」**を左クリック。
「あり」を選択すると禁則処理が行われ、「なし」を選択すると禁則処理は行われません。
※ここで指定した「禁則処理」は、新たに指定を変えるまで有効です。
④文字入力を開始します。（「1．文字の入力」）
③で指定した処理で文字が表示されます。

（変更）
①変更したい文字領域をセレクトします。
②**「書式」**を左クリック。メニューが表示されます。
※メニューでは、現在セレクトされている処理にチェックマークがついています。
③「禁則処理」の中の**「あり」**または**「なし」**を左クリック。
「あり」を選択すると、文字領域内の右端１列が句読点、括弧のために確保され、文字領域内で、禁則処理、字送りが行われます。また、「なし」を選択すると、右端までの文字が詰められ、禁則処理が解除されます。
※ここで、選択した処理は、一時的なものですので、新たに文字入力する場合は元の処理で行われます。

A
HAPPY BIRTHDAY!
↓
HAPPY BIRTHDAY!

B
お誕生日おめ
↓
お誕生日おめでとうございます

C
お誕生日おめ
でとうござい
ます
↓
お誕生日おめでとうございます

8. 文字枠詰め

指定した文字領域を実際に入力した文字の数や大きさに合わせて、縮めたり、拡大したりする機能です。
文字入力後、指定した文字領域の大きさを調整するときに行います。
指定した文字領域が入力した文字に対して大きい場合は、左図Aのように文字ぎりぎりまで文字領域を縮め、左図Bのように入力した文字が多すぎて指定した文字領域内に表示できないような場合は文字ぎりぎりまで文字領域を拡大します。
また、左図Cのように、何行かにわたって入力された文字を1行に入るように文字領域の大きさを調整する機能もあります。
ただし、上記のどの場合も、リターンキーで改行された文章がいくつか入力されているときは、最初の改行までの範囲のみを表示します。（改行された後の文字は表示されません。）

①文字枠詰めを行う文字領域をセレクトします。

②**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「文字枠詰」**を左クリック。
入力された文字の大きさに合わせて、文字領域が縮小、拡大されます。
※グラフキーを押しながら文字キーの「F」を押しても指定することができます。

5 編　　集

描いた図形の拡大・縮小・移動、切り取り、貼り込み、消去、複製など、編集作業を行います。

編集は、どの図形に対して編集作業を行うのかを指定（セレクト）してから行います。

1．拡大・縮小

描いた図形の拡大、縮小を行います。

拡大・縮小には、次の種類があります。
- A　垂直（縦）方向のみ拡大・縮小
  横幅は元のまま、縦の長さのみ長く（短く）します。
- B　水平（横）方向のみ拡大・縮小
  縦の長さは元のまま、横幅のみ長く（短く）します。
- C　垂直、水平方向ともに拡大・縮小
  縦横の長さを自由に長く（短く）します。
- D　図形の向きを変えて拡大・縮小
  点対照、線対照の向きに図形を拡大・縮小します。
  縦横の長さは自由に長く（短く）できます。

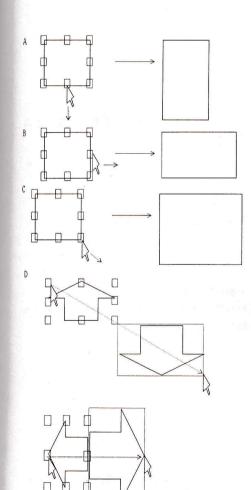
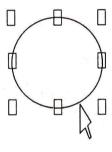
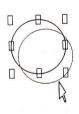
①拡大・縮小する図形をセレクトします。図形にセレクタが表示されます。

②図形に表示されたセレクタを左クリック。
拡大・縮小の種類によって、左クリックするセレクタの位置が変わります。（左図A～D）

③マウスカーソルを動かすと、拡大・縮小の大きさと方向を示す目安の枠（ラバーバンド）が表示されます。

④拡大・縮小の大きさと方向が決まったら左クリック。
拡大・縮小された図形が表示されます。
思ったとおりに、拡大･縮小できなかった場合は、再び②～④を行います。

2．移動

描いた図形を描画画面の別の場所に移動します。

①移動したい図形をセレクトします。図形にセレクタが表示されます。

②セレクトした図形の線上（セレクタが表示されていないところ）を左クリック。

③マウスカーソルを動かします。
セレクトした図形の枠（ラバーバンド）が、マウスカーソルの先について移動します。

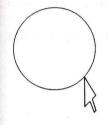
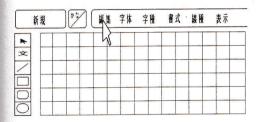
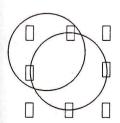
④移動したい位置にラバーバンドがきたら、左クリック。
ラバーバンドの位置にセレクトした図形が表示されます。
思った位置に移動できなかった場合は、再び②～④を行います。

3．複製

セレクトした図形と同じ図形をもう１つ描画画面上に表示します。

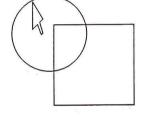
①複製したい図形をセレクトします。図形にセレクタが表示されます。

②「**編集**」を左クリック。メニューが表示されます。

復元 Z　消去 K
切取 X　貼込 V
複写 C　複製 D
前出 <　後 >
合体 +　分離 -
文字枠詰 F
総選択 A

③「**複製**」を左クリック。

④メニューが消え、セレクトした図形のすぐ右下に同じ図形が表示されます。
この図形は、すでにセレクトされていますので、そのまま移動することができます。
※もう１つの複製方法
グラフキーを押しながら、キーボードの「D」を押します。

4．切り取り

描いた図形を画面上から消し、コンピュータに記憶させます。消去と違って、切り取った図形は貼り込みを行うことによって何度でも描画画面に表示させることができます。(消去は貼り込みができません。)
ただし、貼り込みができるのは直前に切り取った図形のみです。

①切り取りたい図形をセレクトします。図形にセレクタが表示されます。

②**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「切取」**を左クリック。

④メニューが消え、セレクトした図形が描画画面から切り取られ、コンピュータに記憶されます。
※もう1つの切り取り方法
グラフキーを押しながら、キーボードの「X」を押します。

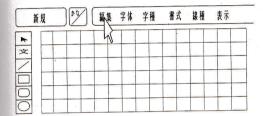
5．複写

描いた図形を描画画面上に表示したまま、コンピュータに記憶させる機能です。複写した図形は、貼り込みを行うことによって、何度でも描画画面に表示させることができます。同じ図形をいくつも画面表示させたい場合に便利です。
ただし、貼り込みができるのは直前に複写した図形のみです。

①複写したい図形をセレクトします。図形にセレクタが表示されます。

②**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「複写」**を左クリック。

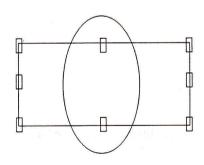
復元 Z　消去 K
切取 X　貼込 V
複写 C　複製 D
前 <　後送 >
合体 +　分離 −
文字枠詰 F
総選択 A

④メニューが消え、セレクトした図形がコンピュータに記憶されます。
※もう１つの貼り込み方法
グラフキーを押しながらキーボードの「Ｃ」を押します。

6．貼り込み

切り取り、または複写した図形を、何度でも描画画面上に表示させます。
切り取り、複写した図形は、他の図形を切り取り、複写するか、『図形プロセッサ』を終了するまでコンピュータに記憶されていますので、いつでも貼り込むことができます。
※何度か切り取り、複写を繰り返した場合、再び画面表示できるのは最後に切り取り、複写した図形のみです。
　また、消去を行った場合は貼り込みができませんので、注意が必要です。

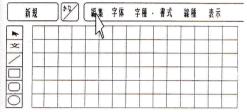
①**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

②**「貼込」**を左クリック。

復元	Z	消去	K
切取	X	貼込	V
複写	C	複	D
前出	<	後送	>
合体	+	分離	-
文字枠詰			F
総選択			A

③直前に切り取り、複写を行った図形が描画画面上に表示されます。このとき、セレクトしている図形があれば、その図形の中央、セレクトしている図形がなければ、描画画面中央に表示されます。(必要があれば、移動を行います。)
※もう１つの貼り込み方法
　グラフキーを押しながらキーボードの「Ｖ」を押します。

7．消去

描いた図形を、コンピュータ上から消します。
消去した図形は再び表示することができませんので注意が必要です。

①消去したい図形をセレクトします。図形にセレクタが表示されます。

②**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

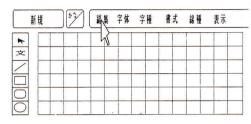
復元 Z　消去 K
切取 X　貼 V
複写 C　複製 D
前出 <　後送 >
合体 +　分離 −
文字枠詰 F
総選択 A

③**「消去」**を左クリック。

④メニューが消え、セレクトした図形が描画画面上、およびコンピュータ上から消去されます。
※もう１つの消去方法
グラフキーを押しながらキーボードの「K」を押します。

8．復元

拡大・縮小、および移動した図形を処理前の状態に戻します。(アンドゥ機能)
復元がきくのは直前に行った機能のみですので、拡大・縮小または移動を行った後、他の図形を描いたり、編集機能を実行した場合には復元ができません。

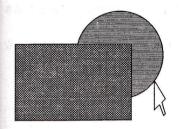
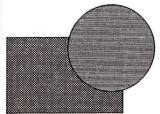
①**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

②**「復元」**を左クリック。

③メニューが消え、拡大・縮小、または移動した図形が元の状態に戻ります。
※この状態で復元を行うと、再び拡大・縮小、または移動された状態（復元実行前）に戻ります。
※もう１つの復元方法
グラフキーを押しながらキーボードの「Ｚ」を押します。

9．前出し・後送り

描かれた図形の重ねる順番を変える機能です。
セレクトした図形を、一番手前（前）にもってくるのが「前出し」、一番奥（後ろ）にもっていくのが「後送り」です。

①「前出し」または「後送り」したい図形をセレクトします。
セレクトした図形にセレクタが表示されます。

新規　かな　編集　字体　字種　書式　線種　表示

②**「編集」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「前出」**または**「後送」**を左クリック。

④セレクトした図形が一番手前（前出し）、または一番奥（後送り）に表示されます。
※もう１つの方法
グラフキーを押しながらキーボードの「<」（前出し）「>」（後送り）を押します。

機能編

6　画面操作

画面表示に関する操作を行います。

描画を縮小して画面表示し、イメージやバランスをみる「レイアウト表示」。
正確な図形を容易に描くために描画画面にかけられている格子を設定する「格子」。
描画が何ページかにわたる場合、ページを指定して画面表示させる「表示ページ変更」。
描画画面の表示を上下左右に移動し、現在画面表示されていない部分を表示させる「画面スクロール」。

以上の操作について、説明します。

1．レイアウト表示

１ページ全体の描画を縮小して、画面表示します。

描画画面は表示できる範囲に限りがありますので、大きな描画を１度に表示させながら作図することはできません。作図の途中で、バランスやイメージを確かめたいときにはこの「レイアウト表示」を行います。

「レイアウト表示」は表示のみです。この中で作図することはできません。

新規　かな　編集　字体　字種　書式　線種　表示

①**「表示」**を左クリック。メニューが表示されます。

レイアウト表示
格子幅
0　2　3
✓4　5　6
7　8　9
10　12　14

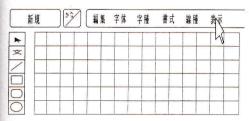
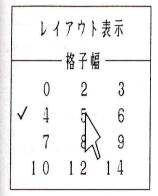
②**「レイアウト表示」**を左クリック。
メニューが消え、描画が縮小されて画面表示されます。

③レイアウト表示を通常の描画画面に戻すには、左(右)クリックするか、他のファンクションまたは作図モードを選択します。

2．格子

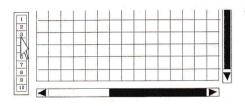
描画画面に一定間隔の方眼（格子）をかける機能です。

格子がかかっていると、線の長さや図形の大きさがわかり易くなり、正確な図形を描くときに便利です。
また、作図の始点、および終点は指定した格子幅にしか指定できなくなりますので、作図のずれを防ぐこともできます。

ここでは、格子の間隔を設定する方法について説明します。

①**「表示」**を左クリック。メニューが表示されます。

②**「格子幅」**の中から、表示させたい間隔を選んで、左クリック。数字の単位はドットです。格子をかけたくないときは、「0」を選択します。
メニューが消え、目安の格子が表示されます。
※「格子幅」は作図の途中で変更することもできます。
※画面上の格子は、ここで指定した格子幅（ドット単位）より、大きな間隔で表示されています。

3．表示ページ変更

指定したページを描画画面に表示させる機能です。

描画が何ページかにわたる場合、その中にあるページを表示させたい場合に行います。

①描画画面左の**「表示ページ変更」**の中から、表示させたいページを選んで、左クリック。

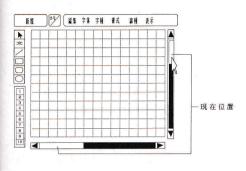
②①で指定したページが描画画面に表示されます。

4．画面スクロール

機械上、描画は１枚の大きな紙に描かれているようなものです。描画画面には、この大きな紙全体を表示することはできませんので、いつもこの大きな紙の一部を表示しています。

現在、描画画面に表示されている部分が全体のどこにあたるかを示しているのが、描画画面の下部と右端にある「スクロールバー」です。また、この「スクロールバー」には画面表示させる部分を変える機能もあります。

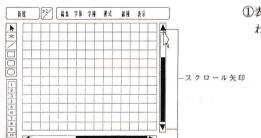
ここでは、画面表示させる部分を変える操作について説明します。このような操作を「画面スクロール」といいます。

※下部のスクロールバーは１ページ全体の左右を示し、右端のスクロールバーは１ページ全体の上下を示します。
また、「現在位置」は、現在描画画面に表示されている部分を示します。

（表示する部分を大きく移動する）

①**「スクロールバー」**の**「現在位置」**にマウスカーソルを合わせ、左クリック。「現在位置」を示すラバーバンドが現れます。

②マウスカーソルを動かし、ラバーバンドを表示させたい位置まで移動します。

③左クリック。「現在位置」にあたる描画の部分が画面表示されます。

（表示する部分を小さく移動する）

①表示したい方向の**「スクロール矢印」**にマウスカーソルを合わせて、左クリック。

②矢印の向きに画面がスクロールし、新しい部分が表示されます。

機能編

7 ファイル操作

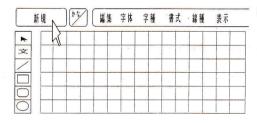
ファイルの読み込みや保存、終了など、ファイルに関する操作を行います。

1. 新規

現在描画画面に表示されている描画の全ページを消します。

描画画面をきれいにして、新しく作図を始めるときに便利です。
保存（または更新）を行わずに、この機能を実行すると、描いた描画は消え、再び表示させることができなくなります。
使用する可能性のある描画については、保存（または更新）を行うことをお勧めします。

①**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

新規 読込L
保存 更新S
登録R 組込G
追加読込
印刷形式
印刷P
終了Q

②**「新規」**を左クリック。
画面に「ファイルを更新しますか」と表示されます。

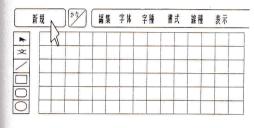
③**「はい」**を左クリックすると、保存または更新（3章 機能編 7 ファイル操作 2. 保存、4. 更新）の処理を行ってから、図形が消えます。
「いいえ」を左クリックすると、そのまま画面に表示されていた図形がすべて消えます。
「中止」を左クリックする（またはESCを押すと）と、機能が実行されず、元の画面に戻ります。
※グラフキーを押しながらキーボードの「Y」（はい）「N」（いいえ）を押しても指定できます。

2．保存

現在画面に表示されている描画をデータディスクの中に保存します。
この機能は、新しく作成した描画を保存するときや、読み込んだ描画でも、元のファイルとは別ファイルとして（上書きせずに）保存したいときに実行します。

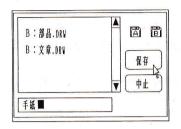
①データディスクをドライブBに差し込みます。

②**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

新規 読込L
保存 更新S
登録R 組込G
追加読込
印刷形式
印刷P
終了Q

③**「保存」**を左クリック。ウィンドウが表示されます。

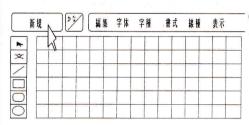
④ [B]（データディスクが入っているドライブ）にマウスカーソルを合わせて、左クリック。

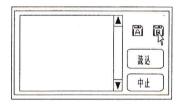
⑤ウィンドウ上の「ファイルネーム入力エリア」に、文字カーソルが点滅します。

⑥ファイルネームをつけ、キーボードから入力します。ファイルネームは半角文字で8文字、全角文字では4文字以内です。リターンキーを押して確定。

⑦ウィンドウ上の**「保存」**を左クリック。（または、リターンキーを押します。）
ウィンドウが消え、保存が実行されます。
「中止」を左クリックする（またはESCキーを押す）と、保存されずに元の画面に戻ります。

3．読み込み

データディスクに保存されているファイルを描画画面上に表示させる機能です。

①読み込みたいファイルが保存されているデータディスクをドライブBに差し込みます。

②**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「読込」**を左クリック。ウィンドウが表示されます。
※グラフキーを押しながら、キーボードの「L」を押しても指定できます。

④ B （データディスクが入っているドライブ）にマウスカーソルを合わせて、左クリック。
データディスクの中に入っているファイルネームの一覧が表示されます。

⑤読み込みたいファイルネームにマウスカーソルを合わせて、左クリック。

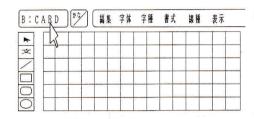
⑥ウィンドウの**「読込」**を左クリックするか、リターンキーを押します。
ウィンドウが消え、指定したファイルが描画画面に表示されます。
読み込みを中止する場合は**「中止」**を左クリックするかESCキーを押します。

4．更新

読み込んで、修正した描画を、すでに保存されているファイルに上書きします。
保存されていた元の描画は書き換えられてしまいますので、注意が必要です。

①データディスクをドライブBに差し込みます。

②**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

新規　読込L
保存　更新S
登録R　細　G
追加読込
印刷形式
印刷P
終了Q

③**「更新」**を左クリック。
読み込みを行ったときと同じファイルネームで保存されます。

5．追加読み込み

現在画面に表示されている描画の上に、保存されている別の描画を読み込む機能です。

読み込んだ描画は元の描画の上に重ねて表示されますので、２つの描画を合成して、表示させたい場合に行います。

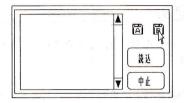
①挿入するファイル（描画）が保存されているデータディスクをドライブBに差し込みます。

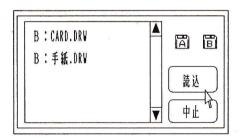
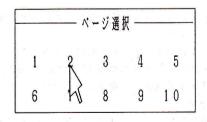
②**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「追加読込」**を左クリック。「このページでいいかな」と表示されます。

新規　読込L
保存　更新S
登録R　紐込G
追加読込
印刷書式
印刷P
終了Q

④現在画面表示されているページの上に追加読み込みする場合は**「はい」**を左クリック。
ウィンドウが表示されますので、⑥の処理に進みます。
別のページに追加読み込みをする場合は**「いいえ」**を左クリック。
追加読み込みを中止する場合は**「中止」**を左クリックするか、ESCキーを押します。
※グラフキーを押しながら「Y」(はい)、「N」(いいえ）を押しても指定できます。

⑤**「いいえ」**を指定した場合は、元の画面に戻ります。
追加読み込みするページを画面に表示させてから**「タイトルメニュー」**、**「追加読込」**を左クリック。
ウィンドウが表示されます。

⑥ [B] (データディスクが入っているドライブ) にマウスカーソルを合わせて、左クリック。
データディスクの中に入っているファイルの一覧が表示されます。

⑦追加読込したいファイルネームにマウスカーソルを合わせて、左クリック。

⑧ウィンドウ上の**「読込」**を左クリックするか、リターンキーを押します。
ページ指定ウィンドウが表示されます。
追加読み込みを中止する場合は**「中止」**を左クリックするか、ESCキーを押します。

⑨⑦で指定したファイル (描画) の中の画面表示させたいページを選択し、左クリック。

⑩指定したファイル (描画) の指定したページが、重ね合わさって表示されます。

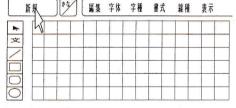
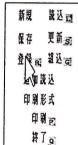
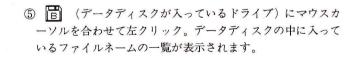
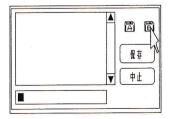
6．登録

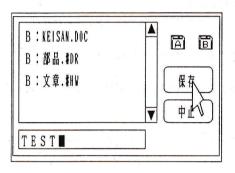
指定した図形をHALNOTEの各ソフトウェア共通のファイル形式（HALNOTE標準形式）で保存します。
作成した描画の中の特定の図形のみをひとつのファイルとして保存したい場合や、『図形プロセッサ』で作成した図形を『ワープロ』の中で使用したい場合、また、登録した図形を『図形プロセッサ』の描画画面に表示させる「図形登録」として使用したい場合などにも行います。
この形で保存されるファイルの拡張子は「＃DR」です。

①データディスクをドライブBに差し込みます。

②登録したい図形をセレクトします。図形にセレクタが表示されます。

③**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

④**「登録」**を左クリック。ウィンドウが表示されます。

⑤ （データディスクが入っているドライブ）にマウスカーソルを合わせて左クリック。データディスクの中に入っているファイルネームの一覧が表示されます。

⑥ウィンドウ上の「ファイルネーム入力エリア」に、文字カーソルが点滅します。

⑦ファイルネームをつけ、キーボードから入力します。ファイルネームは半角文字で8文字、全角文字で4文字以内です。リターンキーを押して確定。

⑧ウィンドウ上の**「保存」**を左クリック。（またはリターンキーを押します。）ウィンドウが消え、登録が実行されます。
「中止」を左クリックする（またはESCキーを押す）と、登録されずに元の画面に戻ります。

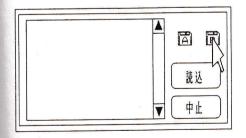
7. 組み込み

『図形プロセッサ』または『ワープロ』で登録（前項）したファイルを『図形プロセッサ』の描画画面に表示させます。
組み込みは、描画画面の左上端を起点として行われます。
なお、『ワープロ』で登録した画像データのファイルは、『図形プロセッサ』に組み込むことはできません。
また、『ワープロ』で登録したファイルを『図形プロセッサ』に組み込むとき、文字データに字体、字種の異なる文字が混在している場合には、全ての文字が先頭文字の字体、字種に揃えられて表示されます。

①組み込みたいファイルが保存されているデータディスクをドライブBに差し込みます。

②**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

③**「組込」**を左クリック。ウィンドウが表示されます。

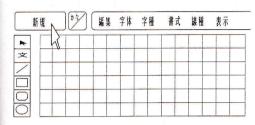
新規　読込L
保存　更新S
登録R　組込G
追加読込
印刷形式
印刷P
終了Q

④ 🄱（データディスクが入っているドライブ）にマウスカーソルを合わせて、左クリック。
データディスクの中に入っているファイルネームの一覧が表示されます。

⑤組み込みたいファイルネームにマウスカーソルを合わせて左クリック。指定したファイルネームが反転します。

⑥ウィンドウ上の**「読込」**を左クリックするか、リターンキーを押します。
描画画面の最左上端から、指定したファイルが表示されます。
組み込みを中止するときは、**「中止」**を左クリックするか、ESCキーを押します。
※組み込まれたファイルは、セレクトされた状態になっていますので、そのまま移動することができます。

8. 終了

『図形プロセッサ』を終了します。

保存（または更新）を行わずに、この機能を実行すると、描いた描画は消え、再び表示させることができなくなります。
使用する可能性のある描画については、保存（または更新）を行います。

①**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

②保存の確認を行います。保存が必要な場合は、保存を行い、必要でない場合は次に進みます。

新規　読込L
保存　更新S
登録R　組込G
追加読込
印刷形式
印刷P
終了Q

③**「終了」**を左クリック。
「終了しますか」と表示されます。

④**「はい」**を左クリック。『図形プロセッサ』が終了し、『バインダ』の画面が表示されます。
終了させずに描画を続ける場合は**「いいえ」**を左クリック。
※もう１つの終了方法
保存の確認が済んだら、グラフキーを押しながらキーボードの「Q」を押します。
この方法は、いちいち「タイトルメニュー」メニューを開かなくても実行できるので便利です。

8 印　刷

描画を印刷します。
ここでは、印刷のための設定、印刷の実行について説明します。

印刷形式は、作図の前に設定しておくこともできます。印刷形式を設定してから作図を行うと、描画画面に紙サイズに合ったガイドラインが表示されますので便利です。

1．印刷形式

印刷に関する設定を行います。設定する内容は、紙の大きさ、種類と方向です。

①**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

②**「印刷形式」**を左クリック。
設定ウィンドウが表示されます。

③印刷したい紙の大きさを選択して、左クリック。
選択した紙の前に ◉ が表示されます。

④紙の種類（連続紙、またはカット紙）を選択し、左クリック。
選択した方向に ◉ が表示されます。

⑤**「設定」**を左クリックするか、リターンキーを押します。設定ウィンドウが消えます。
「設定」をとりやめたいときは、**「中止」**を左クリックするかESCキーを押します。

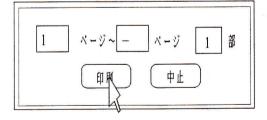
2．印刷の実行

印刷するページ、部数を指定して、印刷を実行します。

①**「タイトルメニュー」**を左クリック。メニューが表示されます。

新規　読込 L
保存　更新 S
登録 R　組込 G
追加読込
印刷形式
印刷 P
終了 Q

②**「印刷」**を左クリック。指定ウィンドウが表示されます。

③印刷開始ページ、終了ページ、部数をキーボードから入力します。
各項目への移動は、各項目にマウスカーソルを合わせて左クリック。
また、終了ページを入力しなければ、最終ページまで印刷されます。
起動時には、印刷ページが１ページから最後まで、部数１部が選択されています。

④プリンタの接続、用紙のセットなどの確認をしてから、**「印刷」**を左クリックするかリターンキーを押します。印刷が実行されます。
設定を中止する場合は**「中止」**を左クリック（またはＥＳＣキーを押します）。
また、印刷を途中で止めたい場合は、グラフキーを押しながらストップキーを押します。

⑤印刷が終わると、画面が元に戻ります。

４章　付録編

HALNOTE

図形プロセッサ

グラフキー対応一覧表

機　　能	対応するキー	機　　能	対応するキー
読　込	L	なし(字体)	N
更　新	S	太字	B
登　録	R	斜体	I
組　込	G	輪郭	O
印　刷	P	影	W
終　了	Q	下線	U
復　元	Z	左寄せ	[
切　取	X	右寄せ	]
複　写	C	センタリング	¥
前　出	<	なし(線種)	0
合　体	+	細	1
消　去	K	中	2
貼　込	V	太	3
複　製	D	なし(矢印)	4
後　送	>	左右	5
分　離	−	左	6
文字枠詰	F	右	7
総選択	A	ナシ(トーン)	8
		□(トーン)	9

索　引

あ

R型四角形……39
アイコン……36
後送り……29, 75
アンドゥ機能……74

い

移動……68
イメージ……76
印刷……92
印刷開始ページ……94
印刷形式……92
印刷中止……94
印刷の実行……94
印刷ページ……94

う

上書き……84

え

円……40

お

オールセレクト……44

か

拡大・縮小……67
影……55
重ねる順番……75
飾り付け……55
飾り付けの解除……56
下線……55
合体……44
紙の大きさ……92
画面……6
画面クリア……80
画面スクロール……76
間隔(格子)……77

き

キーボード……3
起動……4
機能のキャンセル……3
機能の選択……3
切り取り……70

け

現在位置……78

こ

格子……77
格子の間隔……77
格子幅……77
更新……84
合成……85

さ

サイズ……57
作図……36
作図アイコン……11
作図モード……36

し

四角形(四角形)……38
四角形(R型四角形)……39
字種……10, 53, 59
字体……10, 53
縞(文字)……55
斜体……55
修正……23
終了……5, 91
終了ページ……94
縮小……67
消去……73
書式……10, 61
白(トーン)……51
新規……7, 80

す

スクロール……78
スクロールバー……12, 78
スクロール矢印……79
図形セレクト……42
図形の合体……44
図形の分離……44

付録編

せ

正円……40
セレクタ……12, 42
セレクト解除……42
線種……10
線種指定……47
線種変更……47
線対照……67
センタリング……61
線の太さ……47
総選択……44

た

楕円……40
多角形……26

ち

チェックマーク……48
中央……61
直線……37

つ

追加読み込み……85

て

デスクアクセサリ……8
点対照……67

と

トーン……47, 51

な

なし(線種)……47
ナシ……51

は

貼り込み……72

ひ

左端……61
左寄せ……61
描画画面……6
描画の合成……85
表示……11
表示ページ変更……12, 76
標準字体……59

ふ

ファイル……80
ファイルネーム……81
ファイルネーム入力エリア……81
ファンクション……7
ファンクションの選択……3
フォント……59
部数……94
太字……55
分離……44

へ

ページ……78
ページ指定……78
ページウィンドウ……86
編集……8
編集作業……67

ほ

ポイントセレクト……42
方眼……77
保存……81
ボックスセレクト……43

ま

マウス……3
マウスカーソル……12
マウスカーソルの移動……3
前出し……29, 75

み

右端……61
右寄せ……61

も

モード……36
文字の飾り付け……55
文字のサイズ……57
文字の入力……53
文字フォント……59
文字領域……53

や

矢印の種類……49

よ

読み込み……83

ら

ラバーバンド……16, 37

り

輪郭(文字)……55

れ

レイアウト表示……76

3　本マニュアルの内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。

4　ソフトウェア及びマニュアルの内容については、制作にあたり万全を期しておりますが、万一お気付きの点や不明の点がありましたら、お手数ですがご一報くださるようお願いいたします。

5　運用した結果については上記の4項にかかわらず、責任を負いかねますので、ご注意ください。

6　本マニュアルに掲載した画面表示・説明図などは、実際のものとは一部異なることがありますので、了承ください。

第二版　平成2年3月

株式会社HAL(ハル)研究所

〒101 東京都千代田区神田須田町2-6-5 OS'85ビル5F ☎03-252-5561代